

小学校算数B (主として「活用」に関する問題)

平成27年度
全国学力・学習状況調査

問題の趣旨

算数に関する学習内容のうち、身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力について調べる問題です。身近な事象について、式や図形の性質などを利用しながら解決したり、算数の考えを使って説明したりする問題が出題されています。

全体の正答率

* 平均正答率とは、ひとりひとりの児童生徒の正答率(全設問のうち何%の設問に正答したか)を平均したものです。

平均正答率は全国と比較して
1.2%下回っています

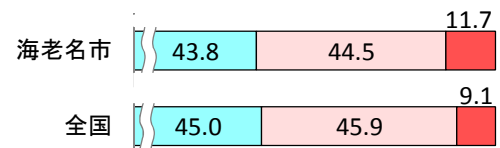
《平均正答率(%)》

	海老名市	神奈川県	全国	全国との比較
算数B	43.8	44.8	45.0	-1.2

誤答の様子は…

《誤答の内訳(%)》

■ 正答 ■ 誤答(書いたが不正解だった)
■ 無解答(何も書かなかった)

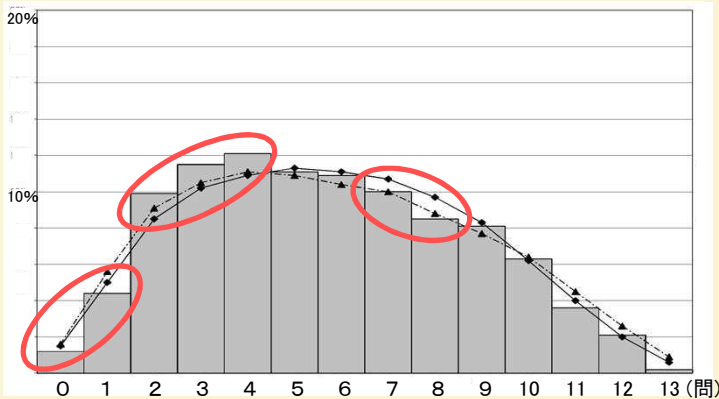


無解答率(何も書かなかった)は11.7%でした。

分布の様子は…

《正答数による分布》

■ 海老名市 --▲-- 神奈川県 ◆ 全国



全国と比較すると
正答数が2~4問の児童が多く
0~1問、7~8問の児童が少ない
ことがわかります

* 正答率50%以下(0~6問)の児童の割合は
61.1%でした。(全国は58.3%)

* 正答率80%以上(11~13問)の児童の割合は
5.8%でした。(全国は6.6%)

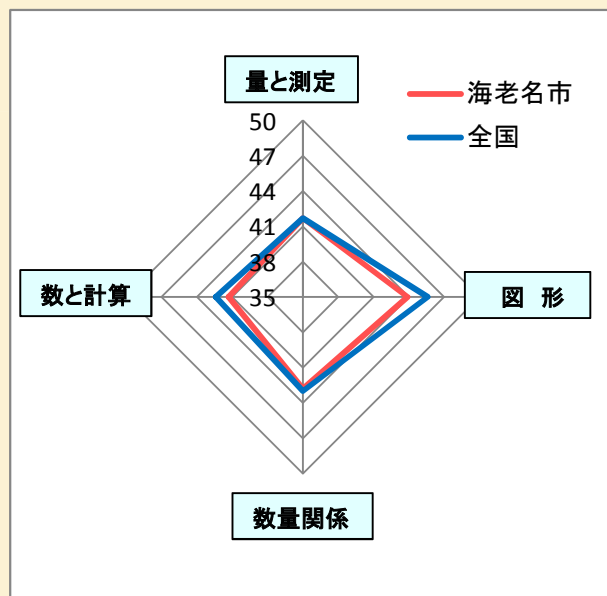
領域別の正答率

「量と測定」が全国と同程度で
した

	海老名市	全国	全国との比較
数と計算	41.3	42.4	-1.1
量と測定	41.7	41.7	0.0
図形	43.9	45.6	-1.7
数量関係	42.8	43.0	-0.2

* 「数量関係」については、ほとんど差がありませんでした。

* 「数と計算」「図形」については、1.0%以上下回っていました。



内容について

* ()内は、平均正答率の全国との比較

全国を上回った設問

- トマトを7個買うとき、最も安くなる買い方を選び、値段を求める。(+3.5)
- 4つの辺を組み合わせて平行四辺形になるものを選ぶ。(+0.8)
- 切り上げて、およその数で計算したときの答えの意味を選ぶ。(+0.5)

全国を下回った設問

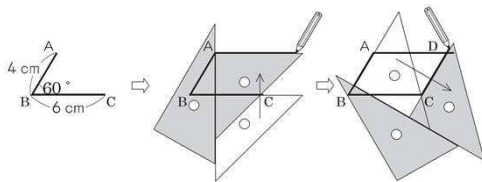
- 三角定規を使って平行四辺形をかく方法について、平行四辺形のどの特徴をもとにしているのかを選ぶ。(−4.8)
- 4桁の数を四捨五入して、およその数にして計算する。(−4.0)
- 問題に示された長方形の特徴を使って、図形の面積を求める。(−3.3)

算数Bで平均正答率が全国を下回った設問の例

三角定規で平行四辺形をかいたときに、使った特徴を選ぶ設問 (全国との比較−4.8%)

※設問の最初の部分を省略しています

次の三角定規を使ったかき方は、下の平行四辺形の特ちょうの中の、どの特ちょうをもとにしていますか。ア、イ、ウの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。



平行四辺形の特ちょう

- 平行四辺形は、
- ア 向かい合った2組の辺がそれぞれ平行である。
 - イ 向かい合った2組の角の大きさがそれぞれ等しい。
 - ウ 向かい合った2組の辺の長さがそれぞれ等しい。

正答 ア

☆算数Bのすべての設問は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

考察

- ◆ 全国と比べて、正答数が5問以上の児童が少なく、2~4問の児童が多い傾向があることから、身につけた基礎的な力を生かして問題を解決する能力を高める必要がある。
- ◆ 図形の特徴を正しく理解し、それを活用して問題解決することに課題があり、指導の工夫が求められる。
- ◆ すべての設問において全国より無解答率が高いことから、粘り強く問題に取り組む力、設問の意図を読み取る能力を身につける必要がある。

平成26年度との比較

	海老名市	神奈川県	全国	全国との比較
平成26年度	57.9	58.6	58.2	-0.3
平成27年度	43.8	44.8	45.0	-1.2

◆ 昨年度と比べて、平均正答率の差が大きくなっている。

◆ 特に「図形」の領域について、改善が必要である。

指導の改善にむけて

- ◆ 「学習した内容を活用する力を高める」ために
 - 自分の考えを図に表したり、説明したりできるように指導する。
 - 図形に関しては、既習した基本の性質に関連づけながら活用できるように指導する。
 - 日常生活に即した様々な課題に取り組み、自分で解決する楽しさを実感できるように指導する。